

刊夕 日四月貳拾



定額 一冊二ヶ月金五拾銭 郵費五拾銭  
廣告 五拾二文字第一行金五拾銭  
日曜 祭日の翌日休刊  
発行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日新聞社  
電話 六三〇〇  
郵便 常磐毎日新聞社

### 簡易洋食の智識

平會館調理部  
今成 鐵一郎

(3)

「カット レット」は、カツレツ（これは、ピフテキや、チヨツプ等に用ふ最上等部の肉を、重さ廿五匁位、厚さ七八分位に切り両面に鹽胡椒をふり、メリケン粉にまぶし玉子液にひたして、パン粉をまぶし付け、バターで焼いた料理です。一般には熱き油で揚げますが、バターで焼いたものが上等です。

調理法は、一人前に切つた肉を、まわりに浅く庖丁を入れて（これは揚げる時ちぢまぬために）両面に鹽とこせうをバラリとふり、メリケン粉にまぶし、水を

### ノート

安全マツチは一八四、五年シユレット教授赤燐を發見之より十年後瑞典のルンドストレーム之を利

少量加へてといふ玉子液にひたして、最後にパン粉にまぶし、掌でかく押しへます、餘り強く押しへると衣が固まつてしまつて揚げてからはがれますから、必ずかるく押しへます。

次に揚げ方は、適當な揚鍋に油をたつぷり入れ火にかけ、かすかに煙立つ位に熱したら、材料を鍋の牛隅からすべり込ませ、一旦沈んだ肉が浮上り衣が硬いた時裏返して狐色になる迄揚げます、付合せは、キャベヂのせん切り、トマトの輪切

### 明日の献立

- 【朝】味噌汁 白菜
- 菜 小付 蓮根
- の煮付
- 【晝】焼豚 白菜
- せん
- 【晚】ケンチン汁 豆腐 大根 里芋 こんにやく 油菜 人参

切りなどを添へれば立派なものです、尚、つひでに申上ますが、パン粉は現在販賣されて居るもの、大部分はパンを粉にした物ではありませぬ故、味を大切にしなければならぬ、特に生パン粉と指定して求めるか、食パンの古いのを利用して、おろし金様のもの、パンをおろし、生パン粉をつくつて用ひますと、味もかるく口當りも素的です。

考迄に、今出盛りのぼたんエビを用つて、エビフライの揚げ方を申上ります。ぼたんエビは、百匁に付き、八九尾位のもの、フライにして味もよく見立も立派です。

調理法は、先ず、エビの頭をぬきとり、よく水洗へして尾を落さぬ様に皮をむき、背に黒く成つて居る腸を取り去り、両面にかろく鹽こせうして、尾だけを殘して、メリケン粉を付け、玉子液にひたして、生パン粉をまぶし付け、カツレツの時の手順でほんのり狐色に揚げ、粉ふき薯、馬鈴薯のサラダ、レモン等を盛合せ、パセリをかざつて供します。

備考、魚の料理には、何んでも粉ふき薯とレモンを添へますが、フライの場合には主に馬鈴薯のサラダを添へます。次に、粉ふき薯とポテトサラダの作り方を申します。「粉ふき薯」中位の馬鈴薯をよく水洗ひして、小口を切り、玉子型の六角に皮をむき、水に鹽を少量加へて充分やはらかうで上げて、鍋のまゝ湯をすて鍋のまゝ火の上にかけてかろくゆり動かして居ると、やがて真白に粉がふいて來ます。これを冷めぬやうにして置いて用ひます。

「ポテイトのサラダ」馬鈴薯を水洗ひして鍋に水をたつぷり入れ、皮ごとやはらかくなる迄煮、水を切り充分冷し、小刀様のもの、薄皮をはぎ取り四つ割として、小口より薄く切つて置きます。次に玉葱を、いも十個に對して、中位の半個程）みじん刻りとして布巾につみみよくもんで水でさらし前の切つて置いたいもまぜ合せ、鹽と胡椒でざつと調味し、よく味の調へたマヨネーズソースで和へます。尚、これに、人参やグリーンピース等を加へますと、美しい色取りになります。マヨネーズの作り方は後述、サラダの作り方の時申上ります。

## 吉田眼科病院

平細屋町電話六八八番  
醫學士 吉田久雄

## 貸切の御用命は

ぜひ・三井自動車部へ!!!

電話六八八番

◎乗合は好間、合戸、澤渡方面行

## 七五三子供服!!

## ハヤシの思ひ切つた大奉仕

子供服 男児 二圓六十銭  
女児 二圓八十銭  
男児 二圓八十銭  
女児 二圓八十銭  
男児 二圓八十銭  
女児 二圓八十銭  
男児 二圓八十銭  
女児 二圓八十銭  
男児 二圓八十銭  
女児 二圓八十銭

## 外科 X線科

安齊外科醫院  
電話四七五番

## 吸入用酸素純度99%

度量器 寒暖計  
モノサシ 體溫計  
マス 秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

## 關内藥局

電話四〇番  
寫真材料一式販賣致シマス

## かまぼこ製造

## 杉本商店

平町一丁目  
お惣菜用 さつま揚  
吉原揚  
電話一四一番

# 香の物の澤庵で

## 村民更生を圖る

### 顧る者のない荒廢地から

### 今では一萬圓以上の利潤

荒廢地から一躍して年收一萬圓を超える利潤を生んで凶作に悩む農村から美望の聲を揚げられるに至つた農村更生美談がある。泉村大字大木戸原の村有地十六町歩は四、五年前までは荒廢地として誰一人顧る者もなかつたが

同村有志が之を拂下げ昭和五年から二ヶ年間に亘り開墾事業を断行して畑地を作りこの約八割を村民百五十八人に分割「土地保存組合々名會社」を設立しこの畑地の賣買を絶對に

嚴禁する誓札をつつて代表社員に功勞者江尻博孝氏を推し更に澤庵組合を設け江尻爲次郎氏が組合長となり各

實行組合で大根の共同栽培を行ひ一戸平均七畝に是れを植付け

昨八年度には東京へ一樽(二十貫)七圓五十錢で百六十樽を出荷した

今年の收穫は反收千貫で千五百樽を東京へ出荷すべく日論んでゐる相場は一樽約五圓なので反收三十樽百五十圓、肥料、種子代その他の諸経費概算六十圓を差引いて裕に一萬の實

收九十圓に達するといふ、この澤庵に依る

更生策は凶作の慘苦を一蹴して今や泉村には和やかな春が附近に約束されてゐる、蓋し凶作に委縮せる農村へ一道の光明を與へるものとして注目されてゐる

## 經濟更生

指定村協議

郡下九年度經濟更生指定村の協議會は十四日平町團體事務所で開催が縣更生課屬列席する筈

## 凶作に鑑み

### 備荒貯金を

### 産業組合が獎勵

石城産業組合部會は来る七日午前十時よりマルトモホール樓上に郡下廿五産業組合長及び職員等五十餘名を招き各産業組合の不況對策協議會を開き左記事項を附議するが本年は東北全縣の凶作被害に鑑み全組合員に

天災に備ふる備荒貯金の獎勵を普及せしめん爲め組合員は産米、藪、農作物等の賣上金の幾分を割いて組合に貯金せしめ移轉又は旱害霜害、風水害等の天變以外は拂戻さぬと云ふ新對策が協議されると、尙當日の出

## 二度目の濡米が

### 今日中に到着

既報本郡の濡米申請は今回第一回の配給洩れとなつた左記十五町村に六百五十俵の第二回配給濡米が今日中に到着する事になつたが今回の配給町村は割合被害の少ない町村なので百俵以上の大口はないと

## 胡瓜の促成栽培

### 分場技手發見の秘技應用

農村經濟の更生に就て數年前より研究を重ねつゝある神谷村農事試驗分場では先に水田三毛作を始めとし幾多の更生案を發表して相當の成績を擧げて來たが最近矢ヶ崎技手は更に胡瓜の最短期栽培による收穫の研究

と仕兼候越申譯任、尙又明朝早速罷歸り、精々骨折、可成丈々、人數差出候様周旋可仕と相答參謀衆へ、自然相通候様申述候而、翌十三日白川出立小平村にて兵糧幸領、丹野彌左衛門に行逢候處御人數既に明白は、白川江御縁込に可相成由申聞候間、夜中又々白川江立歸り、翌十四日孫三郎殿江相願、宿營所大工町常瑞寺請取、直様御大數御

附屬罷在私旅店江尋吳段々御家之事、長藩之噂に候此度こそ勤王實効相立候而、御舊復可被相願候處、無其儀も一切歎願のみにては無詮事之、參謀衆始被申候由申聞候間、殿様御上京(藩主安藤信勇京都行)鈴之御縁尾張御滞在、濃三御領之事柄岩倉殿江一小隊附屬等に而、小家莫大之入費、國力殆盡盡斗に而、御人數に有之候得共、進退如何

## 渡邊農産

### 一等人賣者

渡邊村農産品評會は去る一日から三日間同校小學校で開催、出品五百四十四点に上る盛況であつた、郡農會柴田技手審査の結果三日褒賞授與式を舉行したが一等入賞者左の如し

- 一等大豆 吉田信守 米
- 國井一 大根 國井關太郎 同小野治平 里芋
- 玉井フミ 柿 小野千代
- 田▲二等 大豆 大友操
- 外二十四名

## 本月行事

平第三小學校本月中の各種行事は来る八日の同校體育部選手五十名を職員が招ぎ感謝茶話會を開く外、十二日には全校生徒の遊戯會、十八日は學力調査、廿二、三兩日は圖書書方の月次展覽會、廿四日には校内唱歌會等である

## 平局の收入増

便局管内で去月中に賣上た切手額は平局が二千五百圓九十四錢で前月より百四十三圓三十四錢増、無集配局が四千七百五圓二十七錢で七十六圓六十三錢増、他の集配局は一萬六千八百三十六圓六十四錢で五圓七八錢増、次に市外電話料は二千九百廿八圓八十一錢で三百七十七圓廿八錢、電報料は六百九十八圓六十錢で廿六圓九十九錢何れも各増加した

## 江名俵米品評

平穀物検査所長は来る五日より七日迄江名町農會主催で同町小學校に開かれる俵裝講習會の講師として出張する

## 高麗橋を中心として

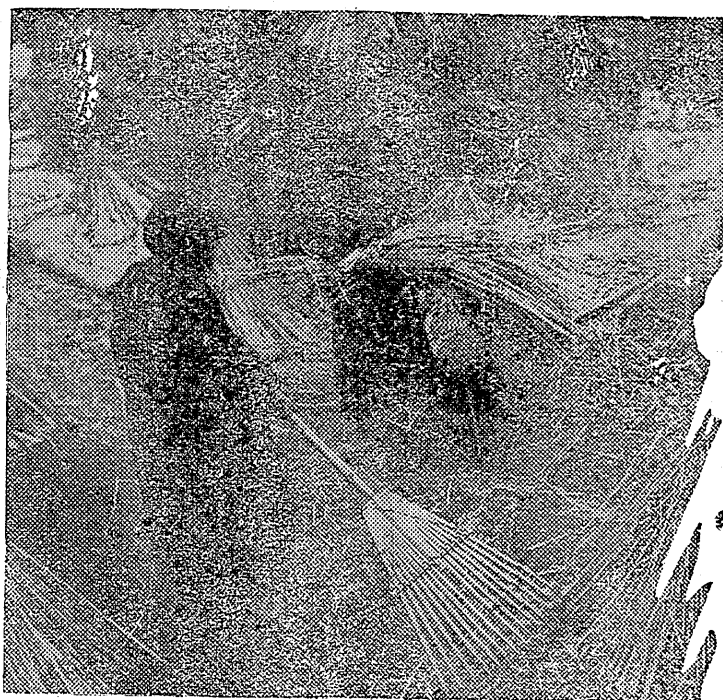
### 眞木翁の懷古事談

父の留書(藩へ提出の公文書の寫)

當辰の閏四月九日、討會應援御出勢之儀に付、本使竹尾直右衛門江被相副同日晝時出立、同十一日白川表江着、即刻登城、御使之趣、參謀衆(官軍尤)之由に被聞届、

二日直右衛門復命仕候而私事は兼而當表出張被仰付候儀に付、御人數線込之手都合も可宜哉と、直右衛門相談の上相残り、事情探索罷在候、其砌森孫三郎殿、(仙臺藩)陣場兵糧方に而御出張有之、加藤覺、門次男音之助

取入れ後の巨團に子供戯る



# 健氣な

## 軍國少年

### 勿來から七名 海軍兵を志願

學業体格何れも卓抜

今年度海軍志願兵應募者は各町村とも激減を示してゐる折柄ひとり勿來町だけは例外で昨年の十一一名に對し今年は十七名應募者があり當事者を喜ばせてゐるがこの十七名の四割に當る左記七名は何れも未だ高等小學校に在學中であり非常時に發奮して健氣にも

應募したものでこの中四名は展げゆく空の名バ イロットたらんと海軍航空

## 唱歌會に

保護者招待

既報平第一小學校々内唱歌會は来る十四日同校講堂に於て開催されるが翌十五日は一般保護者を招待公開する由

## 學期終業

各校の日取

平町各中等學校及び各小學校は目下學期末冬期休暇を前に試験やその他多忙を極めてゐるが各學校の第二期學期終業は左の如くである

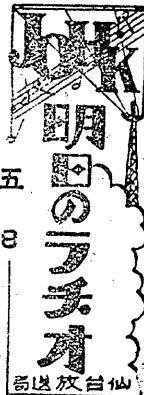
▲警中 二十四日▲平南 同▲警女 同 ▲第一、第二、第三各小學校二十 九日

## 凍傷豫防

生徒に注意

平第一小學校ではシモヤケやアカギレの豫防に關し生徒に左記の事項を勸めて居ると

- 一、手はいつもきれいにしきたなくしておかぬ事
  - 二、手をぬらしたら直ぐに手紙やハンカチーフでよくふいておく事
  - 三、水を使つたあとぬらしたまゝ火にあぶらないでよくふいてマサツしてから火にあてる事
  - 四、つめたいからといってポケットに手を入れたりしない事
- 五、手拭又は手タワシでマサツする事



明日の天気  
今晚も明日も西  
北の風晴曇半す

## 今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間  
お話「郵便が生れた頃」
- 後六、二五 英語講座  
(六の四)岡部 次郎
- 後七、三〇 講演「墨國一  
致の秋」 田中 穂積
- 後八、〇〇 合唱
- 後八、二五 浪花節週間  
(第六夜)春日局
- 後九、三〇 時報 ニュー  
ス 氣象通報 番組豫告

## 悪評に鑑みて

### 改造された糠漬鱒

四倉水産學校が精製して

災害地へ發送

最近凶作地に向けられ大量發送されてゐる郡下各濱鱒乾物が兎角の悪評を放たれてゐるのに鑑み四倉町水産學校ではこの改善法を研究中であつたが此程「糠漬鱒」を案出試製したところ申分ないのでこの「糠漬鱒」を各凶作地へ發送することとなつた

## 魚商告訴

代金を支拂はぬ

埼玉縣蕨町魚商松田榮太郎(昭)は昭和六年六月頃豊間村下町魚問屋志賀竹松方から鮮魚四樽(價格十四圓)若芽六貫匁入り十二俵(價格十八圓)を買入れた外前後三回に亘り合計五十五圓四十四錢の海産物を購入して他に賣却しながら未だに代金を支拂はないので三日平署に引致詐欺横領罪として取調中

## 家出するが

搜索するが

書置き發見  
岩瀬郡日方村瀧農小針正造四男四郎(昭)は去月二十五

## 明日の部

- 前七、〇一 實用文講座  
(二の五)金子彦三郎
- 前七、三〇 聖典講義(四)  
長井真琴
- 前八、〇〇 家庭經濟講  
座「五時間の使ひ方」上野  
村大造
- 後八、〇〇 散歩音樂 田  
村大造
- 後八、〇〇 家庭講座「衛  
生巡禮南歐と北歐」佐藏  
正
- 後八、三〇 常磐津三世相  
錦織文章常磐津若太夫他  
後八、五〇 浪花節週間水  
戸黃門敷島大藏

## 教員籠球審判

既報  
来る九日平第一、第二兩小學校々庭に於て開催される體協石城支部主催の郡下教員籠球大會の申込み校は目下の處平第一小學校を始め同第二、第三、草野、湯本の五チームであるが審判員は本日左の如く決定した

下山田 大淵 芝崎(以上警中教諭) 永島 數妻(以上警女教諭)

## 經費を差引

折角の名案も骨折損

木炭組合の賦課金

濱三郡木炭組合は八年度賦課金未納百三十餘圓の徴收に手を焼いた末に「十一月二十日まで納入したものは半額拂戻する」と發表したが同期間内に納入したのは七十名、僅かに三十圓で印刷代、出張費その他諸經費を差引くと何んとアシが出るという折角の名案も結局骨折損に終つた

松本金次郎氏 平窪  
村造酒業松本金次郎氏は病氣療養中であつたが二日逝去された、同氏は幾多の名譽職に就き現に平窪消防組顧問でその死を惜まれてゐる、葬儀は四日午後二時執行



# 明治太平記

(禁断断絶) (上映及上演) (作) 寺島樞史 (畫) 野口紅涯

## 第三回 ザンギリ頭 (三)

『上野戦争の直前、軍用金調達の重命を帯びた清水喜太郎氏等の手引をなして、お成掛道の石川兩替屋へ押入り、まんまと五百兩せしめ、あまつさへ、その巻添へをくつて禁獄舎につなされたことのある芳丸おぬしいまになつておれの腰の物一つ調達できぬとは云はさんぞ』

大志賀とよばれる旗本上りはその濃い眉毛を釣り上げて、ぐいとにらまへてみせた。

『いえ、そ、そんな芳丸たアちがひますよ、だけど旦那、廢刀令のおかげで丸腰となられたあなたさまでも、萬一のたしなみにお差料を鬱金の袋に入れておかれるのあたりまでせうが……』

『うむ、なるほど、ところが芳丸、あれ以來拙者、いや僕等身邊に、巡察の目がきびしう光つてなろくに宿さといれぬ始末、大小どころか衣類のはてまでこれのとほり着たきり雀さ。ハ、ハ、ハ、』

西洋髪床のあるじは、反射的にきつぱり引受けてしまつた。

『この芳丸、きつと調達いたしませう』

大志賀はにっこりした。

『かたじけない、では芳丸』



けふより三日目のこの刻限に貰ひは参るが、よいか』

『はい、必ず取そろへてをきませう』

『ようし』

とつせん、椅子を立上つた。

呆氣にとられてゐる芳丸を尻眼にもかけず、黒木綿素裕の旗本上りは、凛然として出ていつししまつた。

『ほう——あの氣構え、あの妙ちくりんなおつむの工合……』

後姿を見送つて、しばらく立盡してゐた芳丸は、急に

に重責を身に感じて、何んとかく暗い氣持になつた。はてな、大小を三人分。取揃へるにはわけがないが、廢刀令の出てももない今日、それを抱へて都大路を歩くといふのが問題、うつかり璋義隊の殘黨と、十把一束にされては迷惑千萬である、といつて、何んとかしてそれを取りそろへなれば、こんどは璋義隊殘黨の荒武者たちの怨恨を買ふことになるだらう。

『こいつア、とんだ盲蛇に見込まれたわい。ぼんやり床机に腰かけ、腕こまぬいて寄席藝人上りらしくな苦悶の表情を堪へてゐるところへ、先刻の六等出仕らしい中年の官員が、ふたゝび顔をみせた。』

# 市土子や志盛

店理代平命生本日大最優最 榮盛賀志 (三一電)目丁四平

## 貴方の御家庭に

お手不足は御座いませんか

## 本會を御利用下さい

直に家政婦を派出します

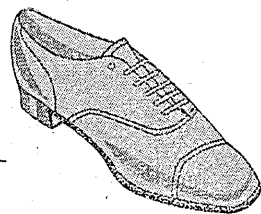
親切 料金は極めて低廉で  
町寧 妊産婦の御家庭 お留守居番  
御病人の付添 年寄やお子さんの付添  
炊事や 雑用

## 派出多忙に付會員至急募集

平町紺屋町二(電話二二三番)

## 上原家政婦會

會主 産婆 上原通子



紳士型靴	4甲00ヨリ	1,000)マテ
學生訓練靴	300	600
七五三子供靴	60	200
ゴム長大人用	200	350
全 小人用	色々アリマス	

旅行用、トランク 大中小種々 折カバン赤黒種々取揃へテアリマス

平四丁目驛通り 菊地靴靴店 電話六五九



## 玉屋洋品店

平町田町通電話六五六番